

新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。本年が皆様にとって良い一年でありますよう祈念いたします。日頃は患者さんをご紹介いただくなど、大阪母子医療センターとの医療連携にご協力をいただきありがとうございます。

昨年4月に、1981年創設以来の病院名称「大阪府立母子保健総合医療センター」を新病院名「大阪母子医療センター」に改称しました。気持ちも新たに、地域医療に貢献する母子医療センターを目指してまいります。

重症疾患、先天性心疾患、新生児疾患、ハイリスク妊婦のほかにも、より一般的な小児の外科系疾患や、ローリスクの妊婦もお引き受けしますので、ご紹介いただきますようお願いいたします。広報にも力を入れております。このたび、地域の皆様に、母子医療センターの医療をよりよく知っていただく目的で、「こどもと妊婦の病気・治療がわかる本」という医療読本を発行しました。母子医療センターで行っている診療や患者支援を紹介するものですが、最新の情報を入れながら、医療者のみならず医療者以外の一般の方にも読んでいただきやすい体裁にしております。ご高覧いただけると幸いです。

4月からは小児集中治療室(PICU)と一般病棟との橋渡しの役割を担うべく1階東棟(8床)を再開棟する予定です。PICUは12床から10床に減少しますが、1階東棟が機能することにより、PICUの病床回転がよくなり、PICUと1階東棟合わせて、地域医療機関からの救急依頼、重症搬送患者の受け入れにこれまで以上に柔軟に対応できるものと考えています。

患者さんをご紹介いただく際の予約受付、セカンドオピニオンの受付には、患者支援センターをご利用ください。重症化した小児の病院間搬送には、PICUホットラインで集中治療科医師に直接お電話ください。小児がん・白血病症例のご相談・ご紹介には小児がん・白血病ホットラインで直接、血液・腫瘍科医師にご連絡ください。ホットラインは医師直通で24時間対応しています。

また新たな試みとして、ネットワーク回線を用いて大阪母子医療センターのカルテ情報(検査結果、放射線画像、処方など)を連携診療所やクリニックで閲覧できるようにする地域医療連携システムの構築を始めています。システムの運用にあたっては、個人情報への厳重な管理、個々の患者さんの同意取得、参加される診療所・訪問看護ステーション・保健所などに登録していただく必要がありますので、小規模でスタートし少しずつ対象を広げていく予定です。

本年も先生方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



病院長 木内 恵子

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

診 療 科 の 紹 介

子どもの こころの 診療科

子どものこころの診療科では、子どもの心や育ちに関する問題の診断や治療を行います。子どもの発達面、情緒面、行動面における心の問題や、養育者の育児不安、親子関係の問題についての診療も行っています。具体的には以下のような症状や問題に対応しています。



子どものこころの診療科スタッフ

1. 発達に関する問題や発達障害に伴う行動障害など
2. 心身症や不安症状など何らかの心理的な問題が関係していると思われる症状
3. 慢性疾患などの身体疾患を持つ子どもの発達や情緒、行動上の問題
4. 親の育児不安や不適切な養育、虐待など親子の関係性の問題

子どもは日々成長しており、成長と共に関わる世界も広がっていきます。様々な人や環境との関わりの中で家族も子どもと共に成長していくわけですが、子ども自身の気質や発達上の要因、家族の状

態や関係性、そして外の世界での人間関係などが複雑に絡み合っており、様々な症状や行動上の問題が生じます。受診されるきっかけとなった問題がなぜ生じているのかについてきちんと評価するために、初診時には出来るだけ十分な時間を取って、生育歴の聞き取り、現在までの経過などを伺っています。このため、診療待ち日数が非常に長くなり、地域医療機関の皆さまには大変ご迷惑をかけております。

現在、地域全体の子どもの発達やこころの支援システムに医療をどう組み込んでいくか、どのような役割分担が必要かなど、母子保健や教育、福祉との連携も含めて検討を始めているところです。

今後ともよろしく願いたします。

(子どものこころの診療科 主任部長 小杉 恵)

産科エコー検査技師

の 紹 介

母子医療センター産科で妊婦健診を受けている患者さんには、18週・28週・36週で、多胎妊娠の方は26週で胎児超音波スクリーニング検査を受けていただいています。

臨床検査技師4名(うち2名が日本超音波医学会認定超音波検査士)が担当しています。

胎児推定体重、羊水量、頭蓋内、顔面、脊椎、心臓、胸腔内、腹腔内、外性器、手足、胎盤や臍帯等をチェックしていきます。心臓は四腔断面の観察に加えて左右流出路や大血管の位置異常の有無、肺静脈の左房への還流も確認しています。検査時間は約20分で、予約制です。

検査件数は約3,000件/年で、昨年度の発見症例は頭蓋内病変、口唇裂、心疾患、腎奇形、骨疾患などがありました。形態異常が疑われる場合は、産科医師に報告し胎児外来へと連携されます。



産科エコー検査技師スタッフ

検査の目的は、形態異常を発見し出生前後の管理・治療につなげることですが、それと同時に、赤ちゃんのしぐさや表情を見ていただくことで愛着形成の機会となることも目指しています。胎位が良ければ3D/4Dエコーをすることも可能です。ご家族一緒に検査室に入っていただけます。

安心して充実したマタニティーライフを過ごせるようお手伝いしたいと思います。

(臨床検査部門 宮城 晶子)

第10回 地域連携懇話会を開催しました (2017年10月30日)

当センターは、2014年にPICUを12床に増床し重症小児緊急患者を受け入れる体制を整備してきました。地域の二次医療機関とのより良い連携ができることを目的に、当センターに多くの患者さんを紹介して下さっている岸和田徳洲会病院と和泉市立病院から小児科の先生をお迎えし、救急医療の現状と当センターへの期待についてお話を伺いました。



重症患者の転院の際、大阪母子医療センターから迎えがあると助かる。

⇒ 当センターから赴いて患者を搬送することについては、現PICUの医師数が十分でないためすぐには実施することは難しいですが検討中です。



搬送後の患者の状況について、途中経過でもよいので早い返書を希望する。

⇒ 返書については、PICU退室時に一旦お返事する運用としていますが、徹底できているかを今一度確認いたします。



今後も顔の見える連携ができるよう、地域の医療機関の先生方と意見交換できる場を設定していきたいと思っております。

News

当センターの職員が受賞しました！



副看護部長 宮川 祐三子

第39回母子保健奨励賞

この賞は母子保健の発展に貢献した人の表彰を行うものです。質の高いケアができる助産師の育成や、双子など複数の赤ちゃんを身ごもり出産する多胎妊産婦と家族のサポートに尽力したことが評価されました。



看護部長 和田 聡子

ひまわり褒章 2017

長年に渡り看護師として周産期医療と小児医療の現場において、健やかな親子関係を支えるための看護活動に尽力したこと、臨床と研究の双方において児童虐待防止のために力を注ぎ、母子看護の質的向上に貢献したことが評価されました。

認定看護師の紹介

小児救急看護認定看護師は、子どもの健やかな成長発達のため、家族も含め支援していくことを活動目的としています。

また、近年の小児救急医療で問題視されている事柄(児童虐待への対応、育児力の低下している家族への支援、0.5次救急と呼ばれる軽症患者で混乱する外来においてトリアージを行うなど)に対応できる看護師であることが求められます。



小児救急看護認定看護師
山下 治子

私は現在、ICUで勤務しています。ICUは現在12床で運営されており、手術直後の急性期、地域の救急搬送、他院からの集中治療を必要とされるお子様を受け入れています。2018年4月からは1階東棟が再開棟し、ICUと合わせて18床に増床され、より多くの集中治療を要するお子様の受け入れが可能となります。

院内での活動は、新しく開設された院内急変対策部門のメンバーとして、部門の3本柱である一次救命処置(BLS)研修、各病棟で急変時のシミュレーション勉強会、RRS: Rapid response system(院内迅速対応システム)に関して救急看護認定看護師と連携しながら看護師としての役割を担っています。

院外では、地域の子育て家庭の保護者や保育士さんに対し、子どもの急な病気やケガの対処法について講習会を行っています。

近年では、一般市民もAEDを含めた一次救命処置技術の習得が高く望まれます。地域の皆様でBLS講習会の開催などについてご相談があればお気軽にお声をかけてください。

クラウドファンディングの御礼

この度、民間サイトを活用したクラウドファンディング等を通じて、新生児搬送用の保育器購入のためにご寄附をお願いいたしましたところ、本当に多くの皆さまからご寄附をいただき、総額1,000万円を超えることとなりました。誠にありがとうございました。また、多くの励ましのお言葉をいただきましたことも、職員一同心から感謝しております。

皆さまのご厚意を励みに、一致団結して「母子、そして家族が笑顔になれるよう」質の高い医療と研究を推進してまいりますので、これからも御理解と御支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

夏休み子どもセミナーを開催しました

昨年に引き続き、「夏休みからだを知ろうセミナー2017」を開催しました。



各テーマ2回の計6回開催し、総勢41名の子どもたちが参加してくれました。



母子医療センターでは、子どもの自立を支援する取組をこれからも進めていきます。

今回のテーマ

- 「おはだのこと・きずのてあて」
- 「脳のふしぎ」
- 「元気いっぱいにごさすコツ」

「しまじろう」が当センターに来てくれました！

9月29日(金)、子どもたちに大人気のキャラクター「しまじろう」が、当センターの子どもたちに会いに来てくれました。

しまじろう病院訪問プロジェクトは、株式会社ベネッセコーポレーションとソニー生命保険株式会社が共同で行っている企画で、今年の4月から全国のこども病院を訪問されています。



「しまじろう」が訪問してくれた病棟は、笑顔でいっぱいになりました。



イブニングセミナーのお知らせ

*大阪府医師会生涯教育研修システム1単位に認定されています。

引き続きイブニングセミナーを開催いたします。ご参加をお待ちしております。

対象	医療関係者
時間	17時30分～18時30分
場所	研究所大会議室
事前申込み	不要(直接会場にお越しください。)

日程	テーマ	担当	講演者
1/10(水)	ここまで手術成績が向上した新生児期開心手術	心臓血管外科	盤井 成光
3/ 8(木)	子どもの発達とところのミカタ～心理士の立場から～	育・療支援部門	山本 悦代



交通のご案内



診察時間：平日 9時～17時30分
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター
〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840
【初診専用】 TEL：0725-56-9890 (直通)
FAX：0725-56-5605
【その他】 TEL：0725-55-3113 (直通)
FAX：0725-56-7785
【医師相談窓口】 MAIL：chiren@mch.pref.osaka.jp

医療者対象
ホットライン

(※24時間受付直通)

【PICUホットライン】

☎ 0725-56-1070

【小児がん・
白血病ホットライン】

☎ 0725-57-7677

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。